

資料 1 - 1

令和 6 年度事業の実施状況について

【令和6年度事業の実施状況】

■評価基準

(A)既に達成(100%以上) (B)順調(80~99%) (C)やや遅れている(50~79%) (D)遅れている(0~49%)

事業名	生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業				評価	B																												
(単位：千円)																																		
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額																													
717	(流用) ▲93	624	540	0	84																													
<p>1 事業の目的、概要</p> <p>学習指導要領とGIGAスクール構想に対応した学校図書館の活用をより一層推進するため、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修等を実施する。</p> <p>2 主な事業の実施状況</p> <p>(1) 学校図書館関係職員の能力向上に資する研修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>開催日等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校図書館活用教育普及講座</td> <td>【テーマ】GIGAスクール時代の今こそ、学校図書館の活用を 【対象】各学校の管理職、学校図書館関係者(司書教諭、学校司書、学校図書館担当職員)公共図書館職員、市町村(学校組合)教育委員会学校図書館担当者等</td> <td>8月5・6・8日 ※東中西部の3会場 場で実施(5日は配信あり)</td> <td>143名</td> </tr> <tr> <td>学校司書のためのICTスキルアップ講座</td> <td>【内容】①Basic講座 ②Figjam講座 【対象】小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書</td> <td>①5月22~24日 ②5月22~24日</td> <td>①57名 ②43名</td> </tr> <tr> <td>学校図書館司書研修会</td> <td>【テーマ】デジタルアーカイブの活用と学校図書館 【対象】高等学校・特別支援学校図書館関係者、教職員</td> <td>11月15日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>学校図書館司書実務研修会</td> <td>【内容】学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ 【対象】高等学校司書、特別支援学校司書</td> <td>①10月8日 ②12月13日</td> <td>①24名 ②15名</td> </tr> <tr> <td>学校図書館支援員派遣・訪問事業</td> <td>市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて県立図書館職員が出向いて研修を実施。(派遣先)大山町立図書館、倉吉市立図書館、東部小学校教育研究会図書館部会等</td> <td>延べ12回研修を実施</td> <td>524名</td> </tr> <tr> <td>教育センターとの連携</td> <td>県教育センターが行う司書教諭研修で学校図書館支援員が講師を務めた。また、学校図書館に関する専門研修の講師選定に学校図書館支援員が参画した。</td> <td>司書教諭研修 ①6月4日 ②6月17日</td> <td>①68名 ②77名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 全国大会鳥取県予選高校生ビブリオバトル大会</p> <p>県内高等学校の司書が協力して全国高等学校ビブリオバトル(※)大会の県予選として開催し、代表者1名を選考した。</p> <p>開催日：12月8日 出場者数：8校・11名 参加者：66名</p> <p>※ビブリオバトル：本の魅力を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める書評ゲーム</p> <p>(3) 司書企画事業</p> <p>ア「高校生にすすめたい本リスト2024」作成</p> <p>高校、特別支援学校の学校図書館職員による高校生へのおすすめ本30冊を掲載したリストを作成し、電子データとして県内の高校・特別支援学校へ送付した。あわせて県内市町村立図書館や大学図書館等にも紙のリストを提供した。</p>							区分	内容	開催日等	参加人数	学校図書館活用教育普及講座	【テーマ】GIGAスクール時代の今こそ、学校図書館の活用を 【対象】各学校の管理職、学校図書館関係者(司書教諭、学校司書、学校図書館担当職員)公共図書館職員、市町村(学校組合)教育委員会学校図書館担当者等	8月5・6・8日 ※東中西部の3会場 場で実施(5日は配信あり)	143名	学校司書のためのICTスキルアップ講座	【内容】①Basic講座 ②Figjam講座 【対象】小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書	①5月22~24日 ②5月22~24日	①57名 ②43名	学校図書館司書研修会	【テーマ】デジタルアーカイブの活用と学校図書館 【対象】高等学校・特別支援学校図書館関係者、教職員	11月15日	40名	学校図書館司書実務研修会	【内容】学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ 【対象】高等学校司書、特別支援学校司書	①10月8日 ②12月13日	①24名 ②15名	学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて県立図書館職員が出向いて研修を実施。(派遣先)大山町立図書館、倉吉市立図書館、東部小学校教育研究会図書館部会等	延べ12回研修を実施	524名	教育センターとの連携	県教育センターが行う司書教諭研修で学校図書館支援員が講師を務めた。また、学校図書館に関する専門研修の講師選定に学校図書館支援員が参画した。	司書教諭研修 ①6月4日 ②6月17日	①68名 ②77名
区分	内容	開催日等	参加人数																															
学校図書館活用教育普及講座	【テーマ】GIGAスクール時代の今こそ、学校図書館の活用を 【対象】各学校の管理職、学校図書館関係者(司書教諭、学校司書、学校図書館担当職員)公共図書館職員、市町村(学校組合)教育委員会学校図書館担当者等	8月5・6・8日 ※東中西部の3会場 場で実施(5日は配信あり)	143名																															
学校司書のためのICTスキルアップ講座	【内容】①Basic講座 ②Figjam講座 【対象】小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書	①5月22~24日 ②5月22~24日	①57名 ②43名																															
学校図書館司書研修会	【テーマ】デジタルアーカイブの活用と学校図書館 【対象】高等学校・特別支援学校図書館関係者、教職員	11月15日	40名																															
学校図書館司書実務研修会	【内容】学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ 【対象】高等学校司書、特別支援学校司書	①10月8日 ②12月13日	①24名 ②15名																															
学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて県立図書館職員が出向いて研修を実施。(派遣先)大山町立図書館、倉吉市立図書館、東部小学校教育研究会図書館部会等	延べ12回研修を実施	524名																															
教育センターとの連携	県教育センターが行う司書教諭研修で学校図書館支援員が講師を務めた。また、学校図書館に関する専門研修の講師選定に学校図書館支援員が参画した。	司書教諭研修 ①6月4日 ②6月17日	①68名 ②77名																															

イ「すぐできる！情報検索ガイド - 情報検索のためのリンク集 -」、「デジタルパスファインダー」作成
学校図書館を活用した情報活用能力の育成を目的に県立高校司書を中心に作成した。データ化し、
生徒各自の端末での利用が可能となっている。

(4) 授業活用選定用見本図書の貸出

学校や各市町村立図書館に見本図書を7セット貸出した。また、全点購入の新刊児童図書(選定用)
を希望に応じ閲覧、貸し出した。(2, 565冊)

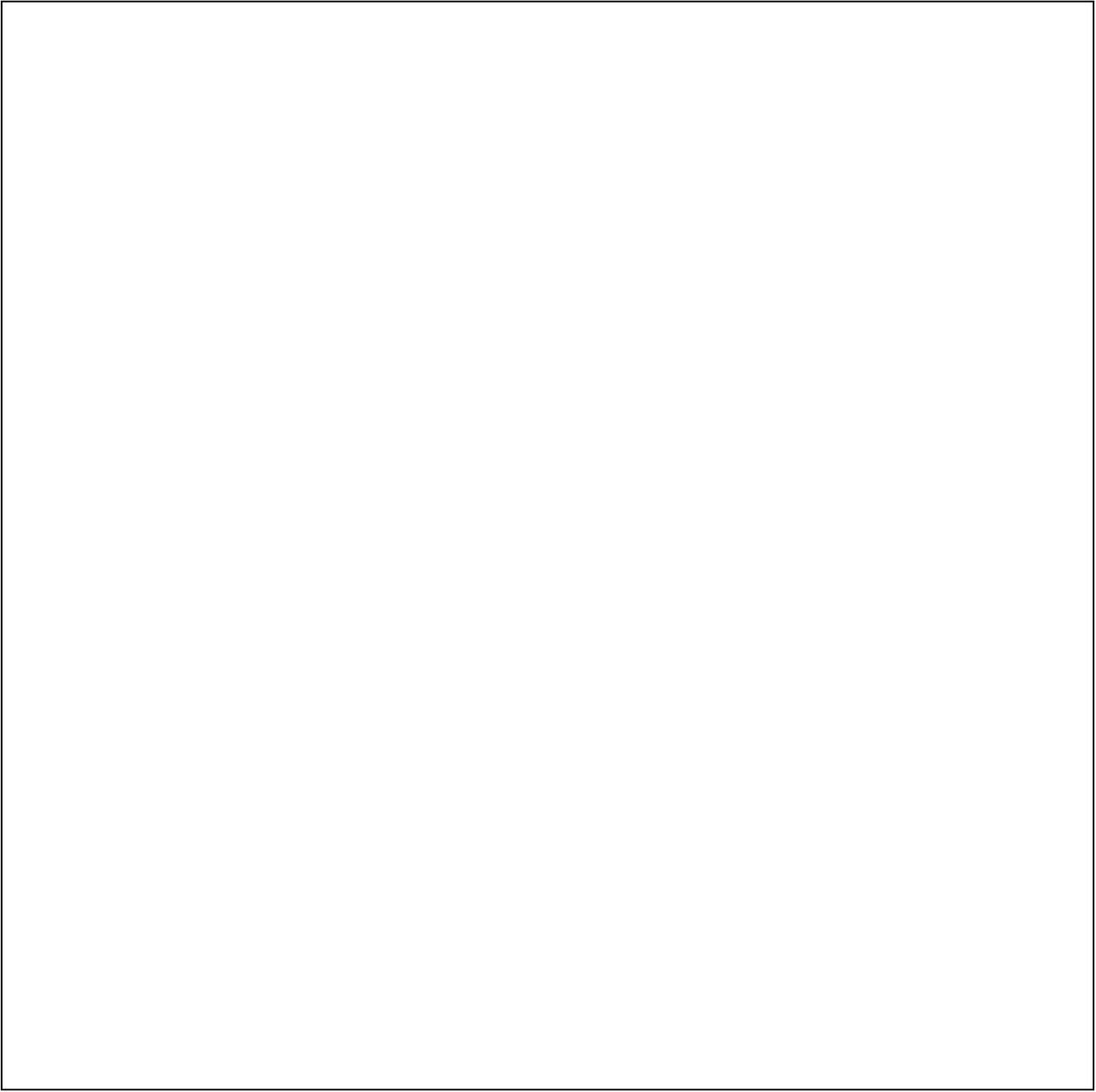
3 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 成果

- ・DX化やICT活用など教育の最新動向を反映した内容で研修を企画。学校現場との連動性が高まった。
- ・学校図書館司書から要望のあった、テーマについての研修を、対面だけでなく配信するハイブリッド形式で実施するとともに東・中・西部3会場で同じ内容の研修等を行い、より多くの参加を可能にした。
- ・「学校図書館活用教育推進ビジョン」「情報活用能力系統表」「年間活用計画」などの資料を研修や訪問相談の場を活用して定期的に紹介し、浸透を図った。
- ・令和7年度の中学校教科書改訂に向けて「年間計画作成のための資料」をアップデートし、現場の変化に対応した情報提供を行った。
- ・各学校への訪問相談や、市町村での研修講師派遣を継続。現場に寄り添った支援体制を維持した。
- ・学校図書館でのICTを活用した授業や探究活動など、実践的な取組が見られるようになった。
- ・公共図書館職員と学校図書館担当者が合同で研修を受講する機会が増え、館種間の連携が進んだ。

(2) 課題

- ・GIGAスクール構想により1人1台端末が整備された環境を活かし、学校図書館でもICTを効果的に取り入れた教育活動の展開が求められている。
- ・探究的な学習における学校図書館の役割を明確にし、学校図書館担当者だけでなく、全教職員の意識を高める研修や情報提供が必要。
- ・学校図書館を支援していくにあたり、各教育局・教育センター・市町村教育委員会との連携をより密にしていく必要がある。
- ・特別な配慮を必要とする児童生徒に対応するため、多様な資料の整備や支援サービスの工夫など、誰もが利用しやすい読書環境づくりが求められている。



事業名	デジタル化時代の知の拠点づくり事業	評価	B
-----	-------------------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
25,433	(流用) ▲210	25,223	24,862	0	361

1 事業の目的、概要

- 令和3年3月に公開したデジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」(以下、「とりデジ」という。)、令和5年度から導入した電子書籍サービスをより全県的に普及させることで新たな利用者を開拓し、非来館者を含めた県民への図書館サービス充実を図る。
- 当館が所蔵する郷土資料のデジタル化を進め、資料利用の利便性を向上させるとともに、貴重な財産を後世へ継承する体制を整えるため、県及び市町村の文化財・観光等の担当者を対象としたデジタル化に関する知識や技術を習得する研修会を行い、デジタル化に長けた人材を育成する。

2 主な事業の実施状況

(1) とりデジ及び電子書籍サービスの普及・充実

ア とりデジの運用等

公文書館、美術館、埋蔵文化財センター、図書館、博物館の5館合同でとりデジを運用。なお、システムは図書館が運用・保守を担当。

①公開データ件数：約 69万件 (うち図書館：約21万5千件)

②総アクセス件数：約147万件 (うち図書館：約18万6千件)

※アクセス件数100万件到達は令和6年5月5日

③図書館事業での活用例

- 郷土文学者情報発信事業では、崩し字で書かれた作品『やつれみのの日記』を解読するワークショップを実施。(令和7年3月14日、参加者11名)テキストを解読した成果は、とっとりデジタルコレクションのコンテンツの翻刻として活用するため準備を進めている。
- 郷土人物をテーマとした企画展示の開催時に、当館のホームページで展示内容を紹介。展示紹介のページにはとりデジ内の当該人物のページへのリンクを貼付した。

イ 電子書籍サービスの運用等

県立図書館の利用者カード保有者だけでなく、市町村立図書館や学校図書館の利用者カード保有者も利用可能な電子書籍サービスを実施。

①利用できる電子書籍システム：Kinoden(紀伊國屋書店)

②利用可能冊数：専門書、学術書、英語多読用資料等2,943冊(うち令和6年度増加冊数：1,336冊・令和7年3月末現在)

③アクセス件数：20,487件(1日あたり56.1件・令和7年3月末現在)

④その他

- 電子書籍の利用案内や新着資料リスト、電子書籍アクセス数月間ランキング(月1回更新)など、電子書籍のPRや利用促進のため電子書籍のウェブページをリニューアルした。(令和6年6月～)
- 特別資料展「平安時代の物語文学ー読み継がれた源氏物語と池田亀鑑ー」に合わせて平安文学に関する電子書籍リストを作成し、ウェブページ、図書館公式SNS、紙面によりPRした。(令和6年9月)
- 伯耆町有線テレビジョン制作番組「勝手に探Q新」で職員が電子書籍サービスをPRした。(令和6年3月、4月)
- 県知事部局(子育て王国アプリや星取県イベント等)、県教育委員会の他所属(県教委公式X、とっとり教育ポータルサイト等)と連携した情報発信を行った。

ウ 「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施等

電子書籍サービス及び「とりデジ」を全県的に普及し利用を促進するため、特に若年層や非来館者向けの出前図書館・イベントを県内4か所で開催した。

実施日	10月13日	11月3日	12月6日	12月7日
会場	鳥取大学附属図書館前	鳥取大学医学部	境港市役所	イオンモール日吉津モール棟2階
対象	学生、教職員	学生、教職員	同市職員、議員	同店利用者
来場者	350名	150名	45名	302名
内容	大学祭に出展し、以下を実施。 ・チラシ配布 ・電子書籍等の利用体験 ・トリピー着ぐるみ	出前図書館を実施	出前図書館を実施	紀伊國屋書店と共同でブース出展し、以下を実施。 ・チラシ配布 ・電子書籍等の利用体験 ・クイズとノベルティ配布 ・トリピー着ぐるみ

(2) 郷土資料のデジタル化推進

ア 当館所蔵資料デジタル化の推進

郷土資料（和本、地図、案内誌等）102点をデジタル化した。

イ 研修の実施

事業名	内容	開催日	参加人数
資料デジタル化研修	【テーマ】資料の撮影方法等 【対象】市町村の文化財・観光等の担当者	11月19日・20日	20名
スキルアップのための研修及び視察	デジタル化に関する資格取得に関する研修受講経費	デジタルアーキビスト資格取得に関する講習(3月1・8・15日及び録画講義のオンラインでの視聴)	1名

3 事業の成果（改善状況）・課題等

(1) 改善等に取り組んだ点

- ・市町村立図書館等の利用カードがあれば県立図書館の電子書籍サービスが利用できることを周知するため、市町村立図書館、大学図書館と協働して「鳥取県電子図書館普及キャラバン」を実施した。
 - ・電子書籍の利用促進に向け、知事部局や県教委の各課に働きかけ、他所属のSNSやイベントでも情報を発信し、より広い層に向けたPRに努めた。
 - ・昨年度に引き続き、鳥取県ライトハウス点字図書館と連携し、電子書籍サービスのウェブページのアクセシビリティを改善した。
- (改善点) 当館で利用可能な電子書籍についてスクリーンリーダーを経由しても確実に情報が得られるよう、テキストデータによる資料リストを新たに作成しウェブページに公開した。

(2) 成果

- ・「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施により、非来館者層を含む多くの方に電子書籍サービスととりデジを広報することができた。また事業に協力いただいた市町村立図書館・大学図書館の来館者数やweb利用者登録件数が増加するなど、相乗効果が得られた。
- ・とりデジは、年々アクセス数が伸びている。
- ・資料デジタル化研修は「撮影実習に特化した全県集合型研修」で行ったが、委託先企業によるとこの方式による実施例はこれまでになく、全国モデルとなり得ると評価された。
- ・研修により、県内の図書館員・関係者のデジタル化に関する基礎知識の習得、資料デジタル化の必要性等への理解が進んだ。

(3) 課題

- ・電子書籍サービスととりデジの認知度をさらに高めるため、新規利用者の開拓が見込まれる大学や商業施設、県主催事業でのPR活動等、図書館の枠組みにとらわれない広報の実施が必要。
- ・読書バリアフリーの観点から、電子書籍サービスの音声読み上げ対応のコンテンツを充実させるほか、利便性の向上に向け引き続き紀伊國屋書店への改善提案を行う必要がある。
- ・デジタル化資料の利用を通じた県民の教育文化・観光・研究等への支援に向け、とりデジの機能向上やデジタルパスファインダー等の教材開発をさらに進める必要がある。
- ・貴重な資料を後世へ確かに継承する体制を全県的に整えるため、資料のデジタル化や適切な保存管理及び利活用等の実務を担う人材育成等への支援を継続して行うことが必要。

事業名	仕事とくらしに役立つ図書館推進事業(くらしに役立つ図書館推進事業)	評価	A
-----	-----------------------------------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,806	(流用) ▲851	6,955	6,148	0	807

1 事業の目的、概要

地域の情報拠点として、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供するなど、一層の資料充実や機能向上を図る。

2 主な事業の実施状況

(1) 読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業

ア 鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催

障がい者団体、支援団体、行政関係者等が参加する会議を開催し、「鳥取県読書バリアフリー計画」に基づく事業の取組状況等に関する評価や進捗について意見を聴取した。(3回開催)

イ はーとふる図書館ツアー

視覚障がい者等を対象とする図書館ツアーを開催した。(10月25日、19名参加)

ウ アクセシブルな書籍等の充実(大活字本、点字図書、デージー図書、さわる絵本、電子書籍等)

令和7年3月末現在18,563点 (前年比354点増)

エ アクセシブルな書籍等の貸出

令和6年度18,090点(前年比1,232点増)

オ 障がい者サービス用機器の整備・充実

デージー図書再生機1台、据置型拡大読書器1台、リーディングルーペ16個、リーディングトラッカー27個を購入。

(2) 図書館を活用した「あんしん健康ライフ」応援事業

高齢者を主な対象とし、認知症になっても安心して通える図書館となるための環境整備、デジタル機器を利用した情報収集講座を実施した。

ア 館内標示を考えるワークショップ(認知症本人ミーティング)の開催・館内標示の改善

令和5年度の「認知症本人ミーティング」でいただいた提案を基に、分かりやすい館内標示作成のためのワークショップを実施。これに加えて障がい者関係団体等へ意見聴取し、多様な来館者にとって分かりやすい館内標示を設置した。(3月設置)

イ 高齢者サービス「デジタル機器を利用した情報収集講座」の開催

市町村立図書館との共催により、スマートフォン・タブレットを利用した情報収集方法について学ぶ講座を開催した。

10月23日 倉吉市立図書館・・・参加者 9名

11月22日 米子市立図書館・・・参加者10名

12月19日 鳥取市立中央図書館・・・参加者 5名

2月23日 灘手コミュニティセンター・・・参加者14名

(3) 図書館で「すくすく子育て」応援事業

ア 託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」の実施

幼い子ども連れで来館する利用者が、ゆっくり図書館を利用できるよう託児サービスを実施。

実施日時：毎週水曜午前9時15分～11時45分 利用者数：延べ30名

(4) 豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業

子どもの読書活動推進を図るため、市町村立図書館職員、学校図書館関係者等、子どもと子どもの本に関わる人々が、継続的に研修できる機会を提供した。

ア 児童サービス専門講座の開催

内容	開催日等	参加人数
【テーマ】未就学児と本をつなぐー豊かな未来のために 【講師】水間 千恵氏(白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授) 【対象】公共図書館関係職員、学校司書、司書教諭、幼稚園・認定こども園・保育所の職員等	9月19日	47名

イ 児童サービス実務研修の開催

県立図書館職員が講師を務め、児童サービスの基礎について実践的に学ぶ研修を市町村立図書館との共催で実施。

テーマ	対象・会場	開催日等	参加人数
ブックトーク(入門編)	【対象】市町村立図書館職員等 【会場】まなびタウンとうはく	6月27日	21名
ブックトーク(実践編)	【対象】市町村立図書館職員等 【会場】ちえの森ちづ図書館	11月7日	11名
選書	【対象】市町村立図書館職員等 【会場】ヴィレステひえづ	2月6日	21名

(5) サポートの必要な家庭応援・居場所としての図書館活用推進

ア とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加

県立図書館と県内市町村立図書館から成る鳥取県公共図書館協議会として令和6年9月から県孤独・孤立対策課が所管する孤独・孤立支援に関する官民連携組織(とっとり孤独・孤立プラットフォーム)に参加し、情報共有を推進した。

イ 法情報・困りごと解決支援情報の提供

- 行政書士会・司法書士会との共同による相談会、労働セミナーの開催(会場：県立図書館、26回開催、計262人参加)

3 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業

ア 成果

- 鳥取県読書バリアフリー計画については、令和3年度～5年度までの実施状況を評価し、取組の進捗と今後の課題等を把握することができた。
- LD等専門員連絡会で、特別支援学校以外の学校へ当館サービスについて説明する等、学校現場への普及の機会を得ることができた。
- は一とふるサービスや読書バリアフリーについて、県政テレビやラジオ、新聞等を通じて広く県民へ向けた周知啓発を実施した。
- 「子どものための福祉機器展」等関係団体の行事で出前図書館実施等を実施し、情報発信と連携につながった。

イ 課題

- 令和7年度に計画の最終年を迎える鳥取県読書バリアフリー計画について、当事者、関係団体等と意見交換しながら改訂作業を進めていく必要がある。
- 会議や関係団体の訪問の機会をとらえて現状やニーズを把握し、読書バリアフリー関連施策を充実する必要がある。
- 市町村立図書館や関係団体との連携を強化し、読書バリアフリー・障がい者サービスの一層の周知と利用促進を図る必要がある。

(2) 図書館を活用した「あんしん健康ライフ」応援事業

ア 成果

- 新たな館内表示を設置したことにより、高齢者・認知症の方だけでなく多様な来館者にとって利用しやすい図書館の環境整備を進めることができた。
- 「高齢者対象のデジタル機器を利用した情報収集講座」を学びなおしに取組む方まで対象とし、鳥取・倉吉・米子の市立図書館等で開催したことにより、遠隔地にお住まいの方にも受講していただけた。

イ 課題

- 高齢者向けのサービスについて県内のニーズ・実態を把握し、市町村立図書館・関係機関等との連携によるサービスの充実と利用促進を図る必要がある。

(3) 図書館で「すくすく子育て」応援事業

ア 成果

- 託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」を実施し、幼いお子さん連れの利用者の方にゆっくりと調べ物をしたり本を選んだりしていただくことができた。
- 「子育て応援コーナー」を児童図書室に設置し、子育てに必要な情報を1か所で提供することができた。

イ 課題

- ・当館の子どもと本をつなぐ取組や子育て応援サービスについて、継続して周知を図り利用を促す必要がある。

(4) 豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業

ア 成果

- ・「児童サービス専門講座」は、対象を幼稚園・認定こども園・保育所に広げて開催し、多くの所属からの参加があり、一緒に学び合い理解を深める貴重な機会とすることができた。
- ・「児童サービス実務研修」は、特に児童サービスの経験年数が少ない担当する職員を対象とし、実践や意見交換を通じて互いに学び研鑽し合うことで、児童サービスへの理解が深まり、県内各図書館における子どもの読書活動推進のための取組みを支援することができた。

イ 課題

- ・当館の子どもと本をつなぐ取組について、改めて周知を図り利用を促す必要がある。
- ・社会情勢の変化等を踏まえながら、市町村立図書館や学校をはじめとする関係機関や団体等と連携を図り、子どもの読書活動を推進するための取組みをさらに進める必要がある。

(5) サポートの必要な家庭応援・居場所としての図書館活用推進

ア 成果

- ・とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加や連携展示などを通じて、関係機関との連携を進めることができた。
- ・日常生活の困りごとに役立てていただける「困りごとナビ」を15種類改訂し、最新情報を提供できた。

イ 課題

- ・サービスの一層の周知、市町村立図書館・関係機関等との連携によるサービスの充実を図る必要がある。

事業名	仕事とくらしに役立つ図書館推進事業（図書館ビジネス支援推進事業）				評価	A											
再掲（単位：千円）																	
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額												
7,806	（流用）▲851	6,955	6,148	0	807												
<p>1 事業の目的、概要 地域の情報拠点として、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供するなど、一層の資料充実や機能向上を図る。</p> <p>2 主な事業の実施状況</p> <p>(1) 第6回図書館で夢を実現しました大賞 県内の公共図書館を活用して起業、商品開発等を行った事例を募集、表彰することにより、図書館のビジネス支援機能をPRし、活用を推進することで、県民の課題解決を支援する。 ・募集期間：7月12日～10月30日 ・応募件数：5件 ・審査：外部委員を委嘱し受賞者を決定。 ・表彰式：3月1日に図書館で開催。最優秀賞1件、優秀賞2件 ・関連事業：ウェブページ「としょかんビジネストーク」に事例追加（応募企業で選外となった2社、3月1日公開）</p> <p>(2) ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムの開催 ・記念講演「鳥取で起業するということ」 講師：宇佐美孝太氏（株式会社skyer代表取締役） ・ミニ講演「公立図書館におけるビジネス支援とは？」 講師：竹内利明氏（ビジネス支援図書館推進協議会会長・元電気通信大学特任教授） ・パネルディスカッション「成功事例から学ぶ、図書館を使い倒す方法論」 コーディネーター：延原清隆氏（日本政策金融公庫国民生活事業鳥取支店融資課長） パネリスト：増田晋也氏（アイメモリア株式会社代表取締役）、山田大樹氏（鹿野稲妻飯店店主）、生田昭夫氏（堂計画室代表） ・参加者 72名</p> <p>(3) 夢・実現スタートアップ創業勉強会 県内2図書館と連携して勉強会を開催した。 ・対象 創業を検討している者 ・内容 ビジネスに役立つ図書館の活用法、創業の心構え、準備について ・講師 鳥取県よろず支援拠点職員、図書館職員、INPIT鳥取知財総合支援窓口職員</p> <table border="1"> <tr> <td>開催日</td> <td>10月22日</td> <td>10月24日</td> <td>10月29日</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>米子市立図書館</td> <td>鳥取県立図書館</td> <td>倉吉市立図書館</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>5名</td> <td>7名</td> <td>8名</td> </tr> </table> <p>(4) 県内の産業支援イベントでの出前図書館の実施 商工労働関連研修会、イベントでの出前図書館等の実施(6回)</p> <p>(5) 各種相談会の実施</p> <p>ア 知財・ビジネス合同相談会の定期開催 ・対応者：県立図書館司書、INPIT知財総合支援窓口コーディネーター、弁理士、鳥取県よろず支援拠点の相談員 ・内容：知財・ビジネス情報の検索(司書)、知財(INPIT知財総合支援窓口コーディネーター)、弁理士、経営相談(鳥取県よろず支援拠点相談員) ・会場：県立図書館 ・実施回数：12回 ・相談者：21名</p> <p>イ 起業・経営なんでも相談会/創業融資相談会の定期開催 ・対応者：鳥取県中小企業診断士協会の中小企業診断士、日本政策金融公庫の職員 ・会場：県立図書館 ・実施回数：11回 ・相談者：19名 ・その他：県立図書館司書が相談内容に応じて資料を事前準備。</p> <p>ウ 就農相談会の定期開催 ・対応者：鳥取県農業経営・就農支援センター職員 ・会場：県立図書館 ・実施回数：3回 ・相談者3名 ・その他：県立図書館司書が相談内容に応じて資料を事前準備。</p> <p>(6) 県立図書館と産業支援機関との連携事業</p> <p>ア 高校生ビジネスプラン作成講座の開催(日本政策金融公庫との共催) 「高校生ビジネスプラン・グランプリ」(主催：日本政策金融公庫)の募集時期に合わせて実施。</p>						開催日	10月22日	10月24日	10月29日	会場	米子市立図書館	鳥取県立図書館	倉吉市立図書館	参加者	5名	7名	8名
開催日	10月22日	10月24日	10月29日														
会場	米子市立図書館	鳥取県立図書館	倉吉市立図書館														
参加者	5名	7名	8名														

- ・対象：県内の高校生、高専生（1～3年生のみ）
- ・内容：ビジネスプランの作成、図書館活用講座・館内見学

開催日	8月8日	8月9日
会場	米子市立図書館	鳥取県立図書館
参加者	4名	10名

イ 「貿易実務講座」の開催(ジェトロ鳥取との共催、会場(当館)とオンライン併用)

開催日	11月6日	11月7日
内容	貿易実務・入門	英文契約書・入門
参加者	11名	11名

ウ 企画展示「鳥取県認定グリーン商品リレー展示2024」の開催

循環資源を活用した製品の展示物とともにグリーンイノベーション・SDGs・カーボンニュートラルなどとリンクさせ、関連図書等を図書館で展示した。

展示物	鳥取県認定グリーン商品の実物展示、紹介パネルの展示など	
主催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会	
展示館	10館（県立1館、高等学校9館）	
期間	令和6年9月5日(木)～令和7年2月26日(水)	
	展示館	展示期間
	(県立図書館)	
	鳥取県立図書館	令和7年 1月 4日(土)～ 1月19日(日)
	(学校図書館)	
	倉吉農業高等学校	令和6年 9月 5日(木)～ 9月19日(木)
	米子西高校	令和6年 9月12日(木)～ 9月26日(木)
	米子白鳳高校	令和6年10月23日(木)～11月20日(木)
	鳥取工業高校	令和6年10月18日(金)～11月15日(金)
	鳥取中央育英高等学校	令和6年10月31日(木)～11月14日(木)
	鳥取湖陵高校	令和6年11月27日(水)～12月11日(水)
	湯梨浜学園高校	令和6年11月27日(水)～12月11日(水)
	倉吉西高等学校	令和7年 1月15日(水)～ 1月29日(水)
	倉吉北高等学校	令和7年 1月29日(水)～ 2月26日(水)

3 事業の成果（改善状況）・課題等

(1) 第6回図書館で夢を実現しました大賞

成果 図書館を活用した成功事例により、ビジネス支援サービスのPRにつながった。

(2) ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムの開催

成果 各メディアの取材があり、記事や放送によりビジネス支援サービスのPRにつながった。

(3) 夢・実現スタートアップ創業勉強会

成果 参加者へ創業のノウハウを学んでいただけたことに加え、関係機関との連携が強化できた。また、図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。

(4) 県内の産業支援イベントでの出前図書館の実施

成果 貸出のほか図書館の活用法についても説明を行い、新規利用登録につなげることができた。

(5) 各種相談会の実施

成果 継続的に相談会や各種行事を行うことで、着実に創業や経営に必要な情報を提供でき、図書館のアドバイスを活用してビジネスを立ち上げた事例が生まれ、地域企業の創業や経営を後押しできた。

(6) 県立図書館と産業支援機関との連携事業

成果 高校生ビジネスプラン作成講座を当館外米子市立図書館会場でも開催することで、西部地区の高校生にもビジネスアイデアの発想法や図書館の活用法について学ぶ機会を提供できた。

【全体の課題】

- ・図書館のビジネス支援機能の認知度を高めて活用を推進するため、県内図書館や学校図書館での関連展示の実施や地域メディアやSNSの活用により、さらに情報発信に努める必要がある。
- ・各事業のアンケート結果等から、ビジネス支援サービスを継続的に行ってほしいとの要望を踏まえ、中西部地域でもビジネス支援サービスを拡大していく必要がある。そのため、市町村立図書館と講座やセミナー、出前図書館等を市町村立図書館と連携して実施するなどしてビジネス支援サービスのノウハウ等の情報共有を進めていく。

事業名	郷土情報発信事業	評価	B
-----	----------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,739	(流用) ▲65	7,674	6,396	0	1,278

1 事業の目的、概要

郷土資料を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図る。また、鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催するとともに、県内の関係機関や市町村立図書館、学校図書館と連携し、広く県民へ情報を発信する。

2 主な事業の実施状況

(1) ふるさとの歴史再発見事業

ア 特別資料展「平安時代の物語文学－読み継がれた源氏物語と池田亀鑑－」展

内 容：物語文学、源氏物語が生みだした作品、古典文学の世界、本県出身の源氏物語研究の大家・池田亀鑑の果たした役割と源氏の未来などのテーマで関連資料を展示した。

会 期：8月24日～9月29日

来場者数：596名

イ 郷土文化講演会「平安文学の人物像について - 史実に相照らして -」

開 催 日：11月30日

講 師：流通経済大学准教授 高橋 由記氏

内 容：平安文学に描かれる中宮定子、藤原伊周、藤原道長などの人物について、『枕草子』『栄花物語』といった文学作品と史実とを合わせて講演していただいた。

参 加 者：82名

ウ 鳥取県の昔話を聞く会の開催

毎月第4土曜日に開催した。(参加者：延べ192名。5月は中止)

(2) 郷土文学者情報発信事業

『やつれみのの日記』をテキストに、崩し字で書かれた作品を解説するワークショップを開催した。

開催日：3月14日

対 象：図書館員、一般

内 容：とっとりデジタルコレクションで公開中の郷土資料を活用し、崩し字の翻刻の基礎を学ぶ参加者：11名

(3) 地域資料データベース等サービス事業

日本海新聞の記事を検索・閲覧できる環境を整備した。

- ・日本海新聞記事検索サービス及びマイクロフィルム閲覧サービスの提供
- ・日本海新聞のマイクロフィルム化 (平成31年1月～令和5年12月分)

(4) 郷土資料による企画展示

鳥取県の歴史・文化・人物等や社会的な課題について、所蔵資料の展示を行った。(17回実施)

3 事業の成果 (改善状況)・課題等

(1) 成果

- ・特別資料展で当館所蔵の平安文学に関する資料や日南町出身の池田亀鑑を紹介し、関連の講演会を開催したことにより、多くの県民に図書館資料や郷土人物について知っていただく機会となった。
- ・『やつれみのの日記』を用いた崩し字で書かれた作品を解説するワークショップの開催により、県内図書館員の古文書解説のスキルアップにつながった。併せて、ワークショップで作成した同書の活字版は、とっとりデジタルコレクションの同資料の掲載データに活用した。
- ・郷土資料による企画展示のうち、特にNHK連続テレビ小説「虎に翼」に関連して行った、当県ゆかりの日本人初の女性弁護士の一人である中田正子の展示は、関連資料の貸出やとっとりデジタルコレクションの郷土人物データベースへのアクセスが増加につながった。

(2) 課題

- ・今後も継続して、郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積を行い後世に伝えていくとともに、県民が鳥取県に愛着や誇りを持てるような取組を積極的・魅力的に行っていく必要がある。
- ・県内公共図書館・学校図書館、関係機関等と連携し、これまでに当館が行った展示のパネル等を他の施設に貸し出すなどの方法により、県内全域に郷土情報の周知と活用を促進していく必要がある。
- ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、郷土資料のデジタル化と利活用の推進が必要である。

事業名	市町村立図書館等協力支援事業	評価	B
-----	----------------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
9,924	(流用) ▲718	9,206	8,829	0	377

1 事業の目的、概要

県民への情報保障のため、全県の図書館や関係機関に対して迅速に資料・情報の提供支援を行う等、県内図書館ネットワークの要としての役割を担うとともに、地域の課題やニーズに対応するために県内図書館職員の研修を実施し、全県の図書館サービスの向上を図る。

2 主な事業の実施状況

(1) 図書館へ行こう！キャンペーン

秋の読書週間(10月27日～11月9日)に合わせ、当館と市町村立図書館、大学・高等専門学校図書館、専門図書館が共同で図書館利用促進に向けたキャンペーンを実施した。

- ・実施期間：10月1日～12月1日
- ・内容：図書館で体験メニューを設定し、体験数に応じて賞品をプレゼントした。
- ・賞品・配布数：クリアファイル3,551枚、マグネットシート2,181枚、トートバック500枚
(抽選。応募数1,860件)

(2) 図書館業務専門講座

高度化・多様化する利用者のニーズに対応するため、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。また、下表以外に、当館職員が希望する市町村立図書館の研修会に出向き研修を行った。

区分	内容	開催日等	参加人数
図書館経営	【テーマ】 地域産業とともに歩む甲州市立勝沼図書館の挑戦と地域愛・図書館愛を育むカムカムクラブの活動 【対象】 県内の公共図書館職員(主に管理職)、大学図書館職員、学校図書館関係者、図書館行政担当者	6月7日 ※オンライン 配信あり	47名
児童サービス	【テーマ】 未就学児と本をつなぐー豊かな未来のために 【対象】 県内の公共図書館関係職員、学校司書、司書教諭、幼稚園・認定こども園・保育所の職員等	9月19日	47名
障がい者サービス	【テーマ】 情報アクセシビリティ すべての人に必要なが情報が届く社会を実現するために 【対象】 県内の公共図書館職員、大学図書館職員、高等学校図書館・特別支援学校図書館関係者、図書館行政担当者、障がい福祉(読書バリアフリー、情報アクセス)担当者	11月28日 ※オンライン 配信あり	53名
本の修繕の基礎講座	【テーマ】 本の修繕の基礎講座・ワークショップ 【対象】 県内の公共図書館職員	3月5日	36名
新任職員のための図書館職員実務研修会	【テーマ】 県民の幸せのためにある図書館、資料相談の基礎知識とデータベース活用法、郷土資料の収集と保存・基本的な本の扱い方 【対象】 県内の図書館関係者(主に初任者)	4月21日 ※オンライン 配信あり	39名

(3) 県内図書館の課題解決に向けた支援

- ・当館職員が希望する市町村立図書館の研修会に出向き研修を行った。(4箇所、5回)
- ・市町村立図書館等の依頼に応じ、当館職員が下表の付属機関等の委員を務めた。

附属機関等の名称	任 期
境港市図書館協議会	令和5年10月1日～令和7年9月30日
岩美町立図書館協議会	令和6年 4月1日～令和8年3月31日
わかさ生涯学習館運営委員会	令和5年 4月1日～令和7年3月31日
八頭町子どもの読書活動推進計画第3次計画策定委員	令和6年 8月1日～令和7年3月31日
琴浦町子どもの読書活動推進計画策定委員	令和5年 6月1日～令和6年5月31日
琴浦町図書館協議会	令和6年 7月1日～令和7年3月31日
江府町図書館協議会	令和5年 4月1日～令和7年3月31日

(4) 県立図書館資料等の配送・回収事業

市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、資料相談を行った。

<令和6年度までの市町村立図書館等への貸出冊数>

支 援 先	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市町村	53,352冊	53,884冊	54,317冊	51,576冊
高等学校	26,922冊	23,383冊	20,222冊	16,981冊
特別支援学校	14,659冊	12,862冊	13,749冊	11,906冊
病院図書室	2,160冊	2,185冊	3,536冊	3,992冊
大学・団体・その他	3,088冊	3,336冊	3,136冊	4,375冊
合 計	100,181冊	95,650冊	94,960冊	88,830冊

3 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 改善等に取り組んだ点

- 市町村立図書館(含:学校図書館との合同研修)を対象とした研修会への講師派遣を行い研修テーマの担当部署の職員が講師を務めた。各館職員のみならず当館職員のスキルアップにもつながった。

(2) 成果

- 市町村立図書館の要望等に応じてハイブリッド方式で研修を実施したことにより、遠隔地の図書館の参加や1館からの複数名の参加が増加した。
- 図書館業務専門講座で市町村立図書館でのニーズの高いテーマを取り上げたことにより、前年比で参加人数が70名近く増加した。

	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
令和5年度	25名	28名	37名	26名	116名
令和6年度	47名	47名	53名	36名	183名

- 「図書館へ行こう！キャンペーン」について、公共図書館に加え大学・高等専門学校図書館や専門図書館に参加を呼びかけて実施したことで、館種を超えた図書館間のつながりを作ることができた。

(3) 課題

- 研修のハイブリッド開催により受講者が増加した一方で、直接顔を合わせる機会が減少し県内図書館職員間のつながりが弱くなっている。
- 市町村立図書館と連携し県全体のより良い図書館サービスの提供を推進するため、図書館訪問の回数を増やし、ニーズを把握することが必要である。
- 電子図書館サービス、業務のDX化等新たな課題について、県内公共図書館が共同で研究を進め、対応していく必要である。
- 図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるよう、市町村立図書館と協力して図書館のサービスや機能を広く県民にPRする必要がある。

事業名	図書館国際交流事業	評価	B
-----	-----------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
4,743	(流用) ▲287	4,456	4,405	0	51

1 事業の目的、概要

鳥取県が進めている環日本海諸国との交流や、さらなるグローバル化に伴う幅広い国際交流や国際理解の促進を支援するために、環日本海交流室・国際交流ライブラリーの機能を生かし、広く海外情報を収集・提供する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報を収集・提供する。

2 主な事業の実施状況

(1) 図書交換事業

協定を締結している環日本海諸国の図書館と図書交換を行った。

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル	
河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県D. ナツアグドルジ記念公共図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領
125冊	120冊	158冊	101冊	—	—	20冊	20冊

※ロシア沿海地方(ゴリキー図書館、児童図書館)については、県がロシアとの交流を凍結しているため、送付を見送っている。

(2) 海外に関する資料の収集整理・提供の促進

ア 環日本海交流室・国際交流ライブラリーの運営

閲覧用資料を購入し、利用者に提供したほか、市町村立図書館や学校図書館等に貸出を行った。(図書933冊、雑誌37種、新聞4種)

イ 国際交流ライブラリー企画展示

国際交流、講演会に関する企画展示を行った。

- ・鳥取県が交流している国や地域に関する企画展示(県交流推進課や国際観光課と連携して実施した。(7回))
- ・ピーナッツコレクションに関する展示(5回)

(3) 海外に関する情報発信の開催

国際交流ライブラリー開設10周年を記念し、世界で活躍する鳥取県出身者を講師とした国際交流ライブラリー講演会を開催した。

- ・開催日 11月10日
- ・テーマ 鳥取から世界へ、世界から鳥取へ
- ・講師 タカサカモト氏(フットリング代表/作家)
- ・参加者 99名

(4) 語学・歴史・文化等学習支援事業

ア 多文化を知るイベントの開催

① 英語のえほんを楽しもう♪

- ・開催日 8月18日
- ・内容 子どもから大人まで楽しめる英語絵本の読み聞かせ、英語絵本を活用して体を動かしながら楽しく英語に親しむ活動
- ・講師 レヴィ レイモンド氏(鳥取短期大学地域コミュニケーション学科 助教)
- ・参加者 72名

② 図書館で「ベトナム」を楽しもう♪

- ・開催日 2月16日
- ・内容 絵本の読み聞かせ(ベトナム語と日本語の対訳)、クイズや写真で楽しいベトナムの文化紹介

- ・講師 ラ ウェ ビン氏 (ベトナム ホーチミン出身/鳥取市環日本海経済交流センター ベトナムコーディネーター)

- ・参加者 55名

イ 初心者向け英語多読関連講座の開催

- ・開催日 7月6日、20日
- ・内容 当館所蔵の英語図書等を活用し、元英語教師を講師に招いて英語を楽しむ講座を試行的に開催。
- ・参加者数 各日とも10名

ウ 令和6年度鳥取県モンゴル中央県青少年交流事業関連イベント（図書館でモンゴルの子どもたちといっしょにあそぼう♪）の開催

- ・開催日 6月15日
- ・内容 絵本や室内遊びを通じた交流
- ・参加者 47名

3 事業の成果（改善状況）・課題等

(1) 改善等に取り組んだ点

国際交流ライブラリー講演会は、主会場のほか市町立図書館等のサテライト会場の設置や、自宅等でのオンライン視聴も可能とし、居住地その他の状況に関わらず受講しやすい方法で開催した。

(2) 成果

- ・英語のえほんを楽しもう♪や初心者向け英語多読関連講座では、英語の楽しみ方や、英語の本を読むときのポイントなどを学ぶ機会が提供できたことに加え、当館所蔵の英語関連図書の周知と国際交流ライブラリー・環日本海交流室の利用促進につながった。

(3) 課題

- ・当館の国際交流ライブラリーや環日本海交流室が、多文化理解や県内在住外国人との交流の拠点となるよう、国際理解のための講演会や行事等を開催し、さらなる利用の促進を図るとともに、市町村立図書館や関係課・関係団体と協力し、レファレンスや資料提供、外国語学習等の支援の充実に努める必要がある。
- ・環日本海諸国に係る資料や情報の収集と充実に努め、県内在住外国人の支援及び県民の国際理解を促進していく必要がある。
- ・所蔵する英語資料を活用し、英語への興味関心を高めるための工夫や取組を行う必要がある。

事業名	図書館運営費(資料購入整理費)	評価	A
-----	-----------------	----	---

(単位：千円)

当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
99,598	(流用) ▲24	99,574	99,572	0	2

1 事業の目的、概要

県立図書館の管理運営、資料整備を行う。また、外部委員から図書館運営について意見をいただく図書館協議会を開催する。

2 主な事業の実施状況

(1) 図書館管理運営費

幅広く当館の図書館運営に関する意見を求めるため図書館協議会を開催した。

開催日	10月3日	2月28日
内容	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業の実施状況について 令和6年度事業の実施計画について 読書バリアフリー計画の中間評価等について <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民から寄せられた意見 鳥取県立電子書籍サービスの利用状況 「鳥取県電子図書館普及キャラバン」 「図書館で英語の本を楽しもう」の結果 図書館を活用した「あんしん健康ライフ」応援事業 ボランティアによる図書館の活性化 第29回鳥取県図書館大会の開催結果 	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度事業の実施状況について 令和7年度事業の実施計画について 読書バリアフリー計画の改訂について <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民から寄せられた意見 鳥取県電子図書館普及キャラバンの開催結果 わかりやすい館内標示への変更 全国高等学校ビブリオバトル2024鳥取県大会の開催結果

(2) 資料購入整理費

県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物については広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。

<資料の整備状況>

(単位：冊)

区分	令和5年度末冊数	購入等(寄贈含む)	除籍	計	令和6年度末冊数	
蔵書合計	1,273,798	27,056	△958	26,098	1,299,896	
内訳	一般	876,252	18,152	△410	17,742	893,994
	郷土	156,685	2,848	△1	2,847	159,532
	児童	131,330	3,615	△156	3,459	134,789
	協力	86,165	2,161	△387	1,774	87,939
	その他	23,366	280	△4	276	23,642

<電子書籍の整備状況>

- 利用できる電子書籍システム：Kinoden(紀伊國屋書店)
- 利用可能冊数：専門書、学術書、英語多読用資料等 2,943冊

(3) 受変電設備改修工事

長寿命化計画に基づき、受変電設備の改修工事(実施設計)を行った。(工事は令和7年度に実施)

2 事業の成果（改善状況）・課題等

(1) 改善等に取り組んだ点

書店と選書から納品までのフローを確認し、流れや役割分担を整理することで円滑に電子書籍の購入を進めた。

(2) 成果

- ・電子書籍の導入により、遠隔地居住者の利便性の向上や図書館利用に困難のある方などの読書環境支援につながった。
- ・市町村立図書館では持つことの困難な専門書・技術書など多様な内容の資料を収集することにより、県民が必要とする資料の提供を行った。

(3) 課題

- ・電子書籍サービスの一層の周知を図り、利用の拡大に努める必要がある。
- ・多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら最新の資料を幅広く収集する必要がある。
- ・郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。
- ・書庫を有効に使い、資料の収集・保存・利用が適切に行えるよう、関連業務の改善を続ける必要がある。

「サービス指標」に係る実績と評価

項目	指標	令和4年度 実績数値	令和5年度 実績数値	令和6年度 実績数値	実績 評価	令和9年度 目標数値	目標数値算出のための想定内容
【第1の柱】 「仕事とくらしに役立つ図書館」を実現します。	1 利用者からの資料相談件数	14,567件	15,032件	15,358件	A	15,100件	毎年約100件(0.7%)の増
	2 ビジネス関係の相談会の相談件数	46件	48件	43件	B	58件	毎年3件(7.0%)の増 知財相談会とビジネス情報相談会が令和5年度より「知財・ビジネス共同相談会」となったため件数が減少
	3 医療・健康関係(49類)の図書・雑誌の貸出冊数	22,285冊	22,488冊	22,637冊	A	20,200冊	毎年600冊(3.5%)の増
【第2の柱】 「生涯を通じての人の成長・学びを支える図書館」を実現します。	小学校	97.5%	98.3%	98.3%	B	100%	全校で実施
		中学校	75.0%	75.0%	73.2%	A	71%
	高等学校	25.0%	28.1%	25.0%	C	50%	毎年1校の増
	特別支援学校	70.0%	70.0%	70.0%	C	100%	全校で実施
	子どもの読書に関する研修を主催した市町村立図書館の数	9館	11館	12館	A	11館	毎年1館の増
情報リテラシー教育に取り組む県内の図書館数	3館	1館	4館	A	9館	毎年1館の増	
【第3の柱】 「鳥取県の文化を育み世界に発信する図書館」を実現します。	7 郷土資料の所蔵数	153,818点	156,685点	159,532点	B	166,700点	毎年2,500点(1.6%)の増
	8 県立図書館HPの「鳥取県の情報」へのアクセス数	79,127件	24,479件	5,126件	D	33,600件	毎年約300件(0.9%)の増
	9 環日本海交流室、国際交流ライブラリー資料の貸出数	14,794冊	14,782冊	15,945冊	A	19,700冊	毎年約200冊(1.2%)の増

項目	指標	令和4年度 実績数値	令和5年度 実績数値	令和6年度 実績数値	実績 評価	令和9年度 目標数値	目標数値算出のための想定内容
【第4の柱】 「知の拠点と しての図書館」を 実現します。	10 横断検索のアクセス件数	92,905件	96,687件	139,598件	A	110,000件	毎年約1,000件(1.0%)の増
	11 全県で共同利用している商用データベースの閲覧ページ数	18,513頁	17,839頁	29,579頁	A	27,500頁	毎年2,000頁の増
	12 電子書籍の利用件数	—	(3カ月) 4,138件	20,487件	A	9,000件	R5:5,000件、その後毎年1,000件の増 ※R6.1.4 本格稼働開始
【キーワード】 ネットワーク	13 県立図書館から市町村立図書館、学校図書館等への協力貸出(※1)冊数	95,650冊	94,960冊	88,830冊	D	102,500冊	毎年約500冊(0.5%)の増
	14 市町村立図書館、学校図書館等からの資料相談件数	162件	197件	200件	B	230件	毎年約10件(5.7%)の増
【キーワード】 専門性	15 認定司書(※2)の資格を取得した職員の数	5名	6名	4名	D	10名	毎年1名の増
	16 鳥取県立図書館主催の図書館業務専門講座に参加した市町村立図書館の数	19館	17館	19館	A	19館	全館で実施
【キーワード】 発信力	17 県立図書館ホームページのトップページへのアクセス件数	519,764件	322,725件	316,276件	B	380,000件	毎年約5,000件(1.4%)の増
	18 県立図書館SNS(Instagram)のフォロワー数	200名	568名	846名	A	700名	R4:200名、その後毎年100名の増
【キーワード】 保存と公開	19 とっとりデジタルコレクションの県立図書館のデジタル化資料へのアクセス数	47,972件	48,108件	66,186件	A	27,000件	毎年約1,000件(4.8%)の増
	20 とっとりデジタルコレクションへの参加自治体・機関の数	4機関	4機関	5機関	C	14団体(機関)	各年2団体(機関)の増

※1 協力貸出：都道府県立図書館が県内の図書館等に対して貸出を行うこと。

※2 認定司書：公益財団法人日本図書館協会が認定する司書。図書館における実務経験や実践的知識・技能を継続的に修得した者を評価し、各地域の図書館経営の中核を担いける司書として認定するもの。